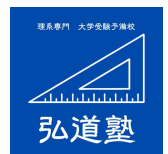


大学受験ガイドブック 医学部 医学科 編

今さら聞けない 医学部（医学科）受験の「超」基本整理ガイド
～元・大手予備校校長が、現場で見てきた現実的な志望校選びと合格戦略～



理系専門 大学受験予備校 弘道塾
栃木県小山市・小山駅東口徒歩8分
TEL : 050-3199-1755

数字と仕組みで見る「現代の医学部受験」

■医学部は、どれくらいの人挑み、どれくらいの人合格しているのか

医学部医学科を置く大学は、全国で82大学あります（国立42校・公立8校・私立31校・防衛医科大学校1校）。2026年度の医学部全体の入学定員は約9,400人です。

一方、志願者数はどうでしょうか。2026年度の医学部への延べ志願件数は約10万件超に達すると推計されています。1人が複数校に出願するため、実際の志願者数とは異なりますが、いずれにせよ定員に対して非常に高い競争状態にあります。

■国公立と私立では「学費」が根本的に違う

国立大学：約350万円（全国どこでもほぼ同じ標準額）

公立大学：約350万～540万円（自県内・他県で学費が異なる場合あり）

私立大学：約1,850万～4,700万円（大学によって最大2,800万円以上の差）

私立医学部の最安値（約1,850万円）と最高額（約4,700万円）では、6年間で2,700万円以上の差が出ます。この学費の差は、志望校選びの最重要要素の一つです。

■「地域枠」と「奨学金制度」を知っているかどうかで、選択肢が変わる

医学部受験において「地域枠」という制度を知らない保護者の方は少なくありません。地域枠とは、卒業後に特定の地域で医師として働くことを条件に、専用の合格枠が設けられる制度です。

2026年度時点で、国公立大学のうち45大学が地域枠を導入しています。

栃木県にも地域枠制度があります。また、多くの自治体が「修学資金（奨学金）」を貸与しており、卒業後に指定地域で一定期間勤務すると返済が免除される仕組みです。

地域枠を活用することで：

- ・一般選抜より合格ハードルが下がる場合がある
- ・学費の負担が大幅に軽減される
- ・卒業後の勤務先がある程度確保される

一方で、卒業後の進路が制限されるというデメリットも理解した上で判断する必要があります。

■「共通テスト85%」が、スタートライン

国公立医学部の共通テスト得点率のボーダーは、一般的に80%以上とされています。ただし大学によって幅があり、75%の大学もあれば93%を超える大学もあります。

大切なのは、この数字は「合格のための最低ライン」であって「合格を保証する数字」ではないということです。共通テストで高得点を取れても、二次試験（個別学力検査）で得点できなければ、合格は遠のいてしまいます。

では、現実的な目標ラインはどこに置くべきでしょうか。

地方の国立医学部を志望する生徒は、二次試験での大幅な上乗せよりも共通テストで安定した得点を積み上げることを軸にする場合が多いです。そのため、共通テスト85%を実質的なスタートラインと考えます。

理由は、地方の国立医学部の多くが共通テスト重視型の配点を採用しているからです。共通テストで85%前後を確保できていれば、二次試験で多少の失点があっても合格圏に踏みとどまれる大学が複数存在します。逆に、共通テストで80%を下回ってしまうと、二次試験でよほどの高得点を取らない限り挽回が難しくなります。

「80%以上がボーダー」という数字に安心せず、85%を最低目標として共通テスト対策を進めていきましょう。

志望校選びで失敗しないための「3つの軸」

医学部受験において、「学費」と「偏差値」だけで志望校を決めると、合格が遠ざかることがあります。以下の3つの軸を意識して検討することをお勧めします。

■軸①：出題傾向の相性 — 「難問出題校」と「ミス厳禁校」

医学部の入試問題は、大学によって大きく2つのタイプに分かれます。

- a. 難問出題校：数学・理科に難問が出る。対応力と時間配分の戦略が問われる。
- b. ミス厳禁校：基本～標準問題が中心で、1問のミスが合否を分ける。無失点勝負。

「自分はどちらのタイプの受験生か」を客観的に分析することが重要です。難問を解くのが得意な生徒と、標準問題を正確に積み上げるのが得意な生徒では、狙うべき大学が変わります。

栃木県の進学校に通う生徒の多くは、学校の授業で標準問題を丁寧に積み上げてきたタイプです。このタイプが難問出題校ばかりを志望してしまうと、本番で「解けた気になっていた問題」にミスが連発し、合格圏から外れる。という結果になりかねません。

■軸②：共通テスト傾斜配点を考える

国公立医学部の入試では、共通テストと二次試験の配点比率が大学ごとに異なります。「共通テスト重視型」「二次試験重視型」「ほぼ同等」の3パターンがあります。

自分の得意・不得意に合わせて：

- ・ 共通テストで安定して高得点が取れる → 共通テスト重視型を狙う
- ・ 二次試験の記述力に自信がある → 二次重視型を狙う

ただし、ここで一つ現実を整理しておきます。地方の国公立医学部は、共通テスト重視型が多いです。つまり、共通テストの得点が合否に直結する大学が多いということです。「二次試験で挽回しよう」という考えは、旧帝大など二次配点が極めて高い一部の大学で通用する形です。地方国立医学部を志望する場合、共通テストでの失点は、そのまま合格圏から離れてしまうことにつながります。

■軸③：上手く狙ってほしい「地域枠・学校推薦型選抜」

医学部受験において、一般選抜だけがルートではありません。学校推薦型選抜や総合型選抜を活用する、主に現役生が増えています。

これらの選抜方式では「評定平均（内申点）」が重要です。評定平均の基準は大学によって異なりますが、4.3以上（5段階中）を求めるだけでなく、校内での選考もクリアしなければならない場合があります。

高1・高2の定期テストの積み重ねが、推薦・総合型選抜の武器になります。

栃木県に在住・在学する生徒にとっては、以下の地域枠が2026年度時点で確定しています。

大学	栃木県地域枠	方式
獨協医科大学	5名	一般選抜前期・学校推薦型 （指定校制）内で設定
慶應義塾大学	若干名	一般選抜・栃木県枠 （2026年度入試から新設）

いずれも、卒業後に栃木県内の指定医療機関で一定期間勤務することを条件に、修学資金の貸与（実質返済免除）が受けられる制度です。また、栃木県の医師修学資金制度は上記以外の、国公立大学の地域枠にも適用される場合があります。詳細は栃木県の最新募集要項で確認してください。

地域枠の出願には、大学への出願とは別に栃木県への応募手続きが必要な場合があります。高2の段階から制度の存在を把握しておくことが重要です。

医学部受験で陥りやすい「3つの罠」

予備校と個別指導での経験から見ると、医学部受験には陥りやすい「3つの罠」があります。特に集団指導では指摘しにくい部分でもあります。

■罠①：難問対策ばかりして、標準問題で失点する

医学部入試の問題は、実は「基本～標準問題」が大半を占めます。難問は全体の1～2割にすぎません。

それにもかかわらず、医学部志望の生徒は「難問が解けないと合格できない」と思い込み、難関大向けの問題集に飛びつくケースが非常に多いです。

結果として、本番で「解けるはずの標準問題」をミスで落とし、難問は解けても不合格、という事態が起きます。

医学部受験は「無失点勝負」です。難問を1問解くよりも、標準問題を1問も落とさないことのほうが合格に直結します。

■罠②：学校の授業・定期テストを軽視して、基礎の欠損を起こす

医学部志望の生徒は学校の授業の進度に物足りなさを感じ、予備校のカリキュラムを優先しがちです。しかし、これが落とし穴になります。

大学入試の問題は、高校の教科書の基本事項の組み合わせで構成されています。数学なら「教科書の例題レベルの基本事項を2～3個組み合わせた問題」が大半です。この基礎の土台がグラグラのまま難問演習に入ると、どこかで点が取れなくなります。

さらに、学校推薦型選抜や総合型選抜を視野に入れるなら、評定平均を下げるわけにはいきません。定期テストの軽視は、選択肢の幅を自ら狭めることになります。

■罠③：模試の判定だけに一喜一憂し、過去問の傾向分析を怠る

模試の判定（A判定、B判定、C判定...）は、あくまで「今の学力が、その大学の合格圏に近いかどうか」の目安にすぎません。判定が良いから安心、悪いから諦める、というのは医学部受験において最も危険な考え方です。

本当にやるべきは、例えば、志望大学の過去5年分の出題傾向を分析することです。

- ・ 数学はどの単元から出題されているか
- ・ 理科（化学・物理・生物）の配点比率はどうか
- ・ 英語の長文の長さや難易度はどうか
- ・ 毎年同じような出題パターンか、それとも変化があるか

こういった分析から、模試の判定を見た時に「傾向からいって、どの単元を仕上げれば判定が上がるか」を考えることができます。具体的な学習計画を立てる事が、合格に繋がるのです。判定に一喜一憂する時間を、他の大事なことに使いましょう。

学校を武器にする「高1・2生からのロードマップ」

■成績が途中で落ちても、諦めないでほしい

ここまで読んで、「うちの子は高1で成績が下がり始めていて、医学部なんて無謀なんだろう」と不安に思った保護者の方へ。

これまで見てきた生徒の中に、高1の二学期から急に数学がわからなくなり、偏差値が10以上落ちた生徒がいました。授業のスピードについていけなくなり、自信を失いかけてもいました。しかし、原因は「能力が足りない」ではなく、「基本を正しく理解しないまま先へ進んでしまった」ことでした。ちゃんと基礎に立ち戻って、自力で答案を再現できる状態まで固めた結果、高3秋には医学部合格圏に届いています。

進学校では、高1の中盤～高2にかけて、理系科目の難度が跳ね上がります。それまで上位だった生徒が急激に成績を落とすのは、珍しいことではありません。問題は「成績が落ちたこと」ではなく「成績が落ちたまま放置したこと」です。

成績が下がった時こそ、医学部合格への立て直しが最も効くタイミングです。

■【高1生】数学I・Aの基本を「自力で再現できる」状態にする

高1で最も大切なのは、数学I・Aの基本事項を「自分の言葉で説明でき、白紙から答案を再現できる」レベルにすることです。

進学校では高2から授業のスピードが加速します。高1の段階で基本が「分かったつもり」で止まっていると、高2の授業についていけなくなり、雪だるま式に理解の欠損が膨らみます。

【具体的なアクション】

- ・教科書の例題の解答を見て理解したら、解答を隠して白紙からもう一度解く
- ・解けなかったら、どこで止まったかを書き残す（「二次関数の軸の求め方で止まった」など）
- ・止まった箇所の基本事項に戻って理解し直す
- ・これを週に1回、定期テスト範囲全体について繰り返す

定期テストは「評定平均を上げるため」だけでなく、「基本が自力で再現できるか」を測るものさしとして活用してください。定期テストで点が取れない場合、問題が難しいのではなく、基本の再現ができていないことが原因のことがほとんどです。

■【高2生】習った週のうちに解法を再現するサイクルを回す

高2では、新しい単元を習うペースが高1の1.5倍～2倍になります。ここで大切なのは、「習ったその週のうちに、自力で再現できるかを確認する」ことです。

【具体的なアクション】

- ・その週に習った単元について、週末に学校の傍用問題集（4プロセス、サクシード、ニュースコープなど）の基本問題を解く
- ・「解説を読めば分かる」問題は要注意。解答を隠して自力で解けるかを確認
- ・自力で解けなかった問題に印をつけ、翌週もう一度挑戦
- ・高2の冬までに、既習単元の「自力で解けない問題」をゼロにする

ここで一つ大切なことをお伝えします。高2で成績が下がった場合、

「もっと難しい問題集に変えよう」「ハイレベルなクラスに入ろう」と考える方がいます。しかし、それは逆効果です。成績が下がった時こそ、「基本に戻って自力で解ける状態にする」ことが大切です。新しい教材を増やす前に、まずは基本を自力で再現できるかを整えることが先です。

■【小論文・面接】医療倫理・地域医療への関心を、日常から言語化する

医学部入試では、一般選抜も含めて多くの大学が面接を課しており、小論文を課す大学も少なくありません。推薦・総合型選抜ではさらにその比重が大きくなります。「医療倫理」「地域医療」「少子高齢化と医療」といったテーマへの自分なりの考えは、高3になってから急に準備できるものではありません。

【高1・高2からできる準備】

- ・新聞の医療・科学面に目を通す習慣をつける（週1回でよい）
- ・「地域医療とは何か」を自分の言葉で説明してみる
- ・「なぜ医師になりたいのか」を、定期的に自分なりに書き直してみる
- ・高校の探究学習や課外活動で、医療・保健・福祉に関連するテーマを選ぶ

完璧な小論文を書く必要はありません。「自分の考えを、自分の言葉で伝える習慣」が、面接や小論文本番で生きてきます。

関東・甲信越圏 国公立医学部 データリスト

■第一志望候補 — 通学圏・現実的な志望校候補

大学名（方式）	募集	共テ:二次	共テ最高	共テ平均	共テ最低	二次の主な科目
筑波大 医学類	44	40:60	92.8%	88.2%	83.8%	数・理・英＋その他
筑波大 医学類(茨城県)	8	40:60	88.9%	86.0%	84.1%	数・理・英＋その他
群馬大 医	65	51:49	89.9%	84.4%	80.0%	数・理(物化)・小論・面
千葉大 医	82	32:68	94.5%	89.3%	85.1%	数・理・英・面
新潟大 医	80	40:60	92.1%	86.1%	81.5%	数・理・英・面
信州大 医	85	45:55	90.6%	86.7%	83.2%	数・理・英・小論・面
福島県立医科大 医	45	51:49	89.7%	82.9%	79.1%	数・理・英・面
福島県立医科大 医(地域枠)	25	51:49	80.9%	79.6%	78.1%	数・理・英・面
横浜市立大 医	58	42:58	94.3%	89.1%	84.6%	数・理・英・小論・面

※共テ得点率（％）・2025年度入試結果に基づく参考値。数学は全てⅢ・Cまで。
理は2科目で「物化」とある大学は科目指定あり。

■共通テスト後に出願検討される大学

実際の指導の中で、共通テストの結果を受けて出願を検討する生徒が多い大学を紹介します。これらは「第一志望」として最初から狙うというより、共通テストの得点状況に応じて戦略的に出願を検討する選択肢です。

大学名（方式）	募集	共テ:二次	共テ最高	共テ平均	共テ最低	二次の主な科目
弘前大 医	50	54:46	84.8%	77.2%	69.7%	数・英・面
福井大 医	55	59:41	90.8%	80.9%	75.7%	数・理・英・小論・面
鳥取大 医	58	57:43	90.7%	84.1%	79.5%	数・理・英・面
山口大 医	55	61:39	89.2%	84.4%	80.1%	数・理・英・小論・面
愛媛大 医	55	42:58	88.4%	81.6%	77.6%	数・理(物化)・総・面
宮崎大 医	45	63:38	88.5%	83.5%	81.1%	数・理・英・面

※同上。いずれも2025年度参考値。年度ごとに変動あり。

これらの大学をいつ・どのタイミングで検討するかは、共通テストの結果が出てから判断します。出願戦略は、合格可能性・傾斜配点の得点率・科目の相性・通学の条件など、複数の要素を総合して決める必要があります。

補足

※1 山梨大学医学部について

関東甲信越圏の国立医学部として地理的にも近い山梨大学ですが、本データ表には掲載していません。

山梨大学医学部は推薦入試を除くと後期日程のみしか存在せず、前期で東大・京大などの旧帝大を受験した層が不合格となった層が受験する大学です。そのレベルの受験者と合格枠を争うことになります。

本ガイドは、計画的に基礎を積み上げ、合格を目指すことを前提にまとめています。山梨大学は、この前提では対象にはならないため、掲載対象から外しています。

※2 「最高・平均・最低」の3点を掲載した理由

合格者の共通テスト得点率には、大学によって10ポイント以上の幅があります。これは「共通テストの点数だけで合否が決まるわけではない」ことを示しています。

平均点は目標値として参考になりますが、最低点は「この点数でも合格した人がいる」という事実を示します。一方で、最低点で合格した人は二次試験で高得点を取ったことが推測されます。最高点から最低点までの幅を確認することで、その大学が共通テストと二次試験のどちらに重みを置いているかも見えてきます。

■私立医学部について

私立医学部は、国公立とは学費の桁が違います（約1,850万～4,700万円）。学費が最大の判断軸になるため、国公立とは別の枠組みで検討する必要があります。

栃木県内には2つの私立医学部があります（自治医科大学・獨協医科大学）。いずれも独自試験（一般選抜・学校推薦型選抜）が中心であり、共通テスト利用選抜は設けていません。

国際医療福祉大学医学部は千葉県成田市に所在し、共通テスト利用選抜（定員15名）を設けています。小山駅から成田キャンパス最寄りの公津の杜駅までは電車で片道2時間以上を要しますが、共テ利用選抜は二次選考が1日のみで完了する日程設定のため、国公立大学の二次試験と並行して併願しやすい構造になっています。

共テ利用選抜のボーダー目安は82～87%ですが、合格最低点は非公開です。指導の中で共テの得点率がボーダーに届いていない生徒が合格したケースを見てきたことから、国公立大学を本命に据えた併願者に対して、出願の門戸を比較的広く開けているように見受けられます。私立の中で正規授業料が最も安い事もあり、出願検討の余地がある大学の一つと考えられます。

私立医学部の出願については、学費・通学・問題の傾向・入試方式などを総合的に判断する必要があるため、個別に相談することをお勧めします。

最後に — 正しく地道な積み重ねが、合格の扉を開く

医学部受験は、確かにハードルが高い。数字だけを見れば、約107,000人が挑んで約9,400人が合格する世界です。しかし、合格する人の学習には共通する特徴があります。

合格する生徒に共通すること：

- ・基本を「分かったつもり」で放置しない
- ・難問に飛びつく前に、標準問題を確実に積み上げる
- ・模試の判定ではなく、自分の弱点を具体的に把握している
- ・定期テストと学校の授業を、受験の土台として大切にしている
- ・成績が下がった時でも、諦めずに原因を見つめて立て直している

これらは、才能やセンスの話ではありません。「正しい順番で、正しい教材を、正しいやり方で進める」という、地道な積み重ねの結果です。

保護者の方へ

お子さまが「医師になりたい」と言った時、その想いを応援したいと思った反面、「うちの子の成績で届くのか」「学費は大丈夫か」と不安になる方もいらっしゃると思います。

医学部受験は、親子で情報を共有し、現実的な戦略を一緒に立てることで、その不安を大きく減らすことができます。このガイドが、その一助になれば幸いです。

進学校の生徒さんたちは、みな真面目に勉強に取り組んでいます。問題は「能力が足りないこと」ではなく、「どこでつまづいているかに気づいていないこと」です。

つまづきに気づき、正しい順番で立て直せば、道は開けます。諦める前に、まずは今の位置をきちんと整理してみてください。

理系専門 大学受験予備校 弘道塾

医学部合格プロジェクト

指導歴30年・元大手予備校校長が、数学・物理・化学の立て直しから合格までの学習順序を一人ひとりに設計する完全1対1の個別指導。

こんな方は、弘道塾がピッタリです

- ✓ 理系科目で成績が下がり始め、不安がある
- ✓ 医学部を目指したいが、今の成績で届くか悩んでいる
- ✓ 映像授業や集団指導を受けているが、成績が伸びない
- ✓ どの単元から立て直せばいいか、自分でも分からない
- ✓ 真面目に勉強しているが成績に反映されなくて不安



その悩み、大学受験のプロである弘道塾にお任せください

無料相談でお伝えすること

- ・今、どこで理解が止まっているのか
- ・医学部に向けて、どの科目・単元から着手すべきか
- ・現在の学力から、志望校はどこにするか
- ・推薦・総合型選抜を活用できるかどうか
- ・弘道塾の指導が、合うかどうか

無料相談・体験授業のお申込み

LINEで相談: <https://lin.ee/ougPhJe>

電話: 050-3199-1755

Web: <https://www.kodojuku.com/medical.php>

所在地: 栃木県小山市駅東通り 1-7-22 海老沼ビル 2F
(JR 小山駅東口徒歩 8 分)

